

防災意識の向上を目的に、「防災講習会」が宝小学校で開催されました。地域の特徴や災害時の心構え、とるべき行動などの話を聞き、津波避難場所や防災倉庫の確認などを行いました。宝学区は海拔0m地帯で、津波や液状化の危険もある地域です。消防団7名も含めて、20学区から約120名の参加があり、皆さん熱心に受講されていて、関心の高さがうかがえました。



▲区役所総務課による防災講座

市の防災倉庫



▲小学校に設置されている名古屋市の防災倉庫です。360人分の毛布や食料(3日分)等が備蓄されていますが、全住民の約5%分にすぎません。支援物資が届くまで最低3日分、できれば7日分、自宅の備蓄が必要です。

津波避難場所



▲宝学区の津波避難場所のひとつは、小学校の屋上です。避難場所を自分で確認してほしいという委員長の呼びかけで、災害時に開錠される外階段を使い、小学校の屋上へ。屋根や壁はなく、床はコンクリートというこの場所で、雨風、暑さ寒さなどをしのぎながら避難することを、皆さんそれぞれ受け止めていました。

学区の防災倉庫



▲主に、機材や工具などが備蓄されています。災害時、学区内の全ての人々の要望に応えることは困難であるため、地域防災協力事業所として15業者と支援協定を結んでいるとのこと。日頃から協力事業所の方々と顔の見える関係をつくっておくことが必要との話が委員長からありました。

参加者の声

- ・今回は避難訓練ではなく講習が中心だったので、しっかり話が聞けて良かったです。
- ・初めて参加しました。勉強になり、もっと詳しく知りたくなりました。また参加します。
- ・防災トイレの重要性がよく分かりました。家に是非備えたいと思います。

主催者の声

- ・特に動員はかけていなかったが、20町内会全てで5名以上の参加がありました。予想以上に関心が高いことが分かり、次につなげたいと思います。
- ・町内会ごとに安否確認や情報伝達ルートを整備する等、自主防災を具体的に進めていく必要があります。このような会を通じて意識を高めていけたらよいと思います。